

イスラエルのための祈り ドレフュスの名誉

2026年5月17日恵比寿BF



ドレフュス事件 1894年フランス 冤罪事件



- ・フランス陸軍の大尉アルフレッド・ドレフュス 35歳

- ・スパイ容疑で有罪、軍籍剥奪 悪魔島へ終身刑で流刑
- ・1899年大統領による特赦

ドレフュス事件の子孫ウリエルの昇進



ウリエル・ドレフュス：イスラエル国防軍 中佐に昇進。

就任式で事件について言及

- ・剣を折られる屈辱的儀式
- ・ユダヤ人であるがゆえに 冤罪事件の犠牲者に
- ・最後まで無実を主張

回復された名誉

- ・1906年最高裁で無罪判決（存命中）
- ・2025年11月、仏国は、アルフレッド・ドレフュスを准将に（不当な判決から130年後）
- ・在イスラエル 仏国大使館のコメント
「正義を重んじる国民であり、過ちを正す」
「反ユダヤ主義が仏国で容認される余地はない」

ダニエルの場合 神による無実の証明

"私の神が御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の危害も加えませんでした。それは、神の前に私が潔白であることが認められたからです。王よ、あなたに対しても、私は何も悪いことはしていません。" 6章22節

"王が命じたので、ダニエルを中傷した者たちが連れて来られて、その妻子とともに獅子の穴に投げ込まれた。彼らが穴の底に達しないうちに、獅子は彼らをわがものにして、その骨をことごとくかみ砕いてしまった。" 6章24節

イスラエル建国とドレフュス事件

- ・政治的シオニズムの父となる、オーストリア出身のユダヤ人ジャーナリスト、テオドール・ヘルツルの世界観に大きく影響

→独立したユダヤ人国家の必要性を確信

- ・1948年のイスラエル建国へとつながるシオニズム運動を加速させる一因

人間の悪を良いことの計らいとして下さる神

1894年のドレフュス事件→シオニズム運動の発展→1948年
イスラエル建国

"あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いこと
のための計らいとしてくださいました。それは今日のように、
多くの人が生かされるためだったのです。"

創世記 50章20節

お祈りの課題

- ・悪を善に変えて下さる神様の御手の中にあつて 今 戦時下にあるイスラエルが 守られるように。
- ・世界中で現在 反ユダヤ主義が高まっている。ユダヤ人の方々が守られるように。
- ・ダニエルや創世記のヨセフをお手本にして、私たちも 人々から誤解されたとしても神様の御前に正しく歩むことができるように。